

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2025年2月分)

2025年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[国政与党間の緊張を受けた各種解任イニシアティブ\(12日～25日\)](#)

●[下院議長団メンバーの選出\(20日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[洪水被害対応への抗議集会\(10日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[セルビア独立記念日の記念行事\(12日\)](#)

●[ドディックRS大統領への有罪判決\(26日～28日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[コナコビッチ外相の西バルカン・フレンズ・グループ外相会合出席\(10日\)](#)

●[ミュンヘン安全保障会議へのBHからの参加\(14日～16日\)](#)

(2) 二国間関係

●[コナコビッチ外相の訪米\(19日～21日\)](#)

●[セルビア要人のRS訪問\(19日～26日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[ブルキッチ外務副大臣表敬\(4日\)](#)

●[ズビズディッチ下院議長表敬\(26日\)](#)

●[天皇誕生日レセプションの開催\(26日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●国政与党間の緊張を受けた各種解任イニシアティブ(12日～25日)

12日、SNSDによるコナコビッチ外相の解任イニシアティブ(1月9日の「RSの日」を追悼日とするイニシアティブの提出に対する反応)がBH下院で審議されたが、反対多数で否決。また、20日には、1月27日にSDA及びDFが立ち上げたコナコビッチ外相の解任イニシアティブが下院で審議され、こちらも否決された。

18日には、BH上院でシュピリッチ議長の解任に係るイニシアティブの審議が行われる予定となっていたものの、HDZ及びSNSD議員の退席により出席者が不足し、会合が中止となった。

25日には、BH下院でコシャラツBH副首相兼通商・経済関係大臣及びアミジッチ財相(ともにSNSDのセルビア系)の解任イニシアティブが可決され、上院での審議を待つ状態となっている。

●下院議長団メンバーの選出(20日)

20日、解任となったラドマノビッチ下院第二副議長(セルビア系、SNSD)の後任としてRS野党が指名したババリ下院議員(セルビア系、SDS)の選出に関する投票が行われ、賛成19票、反対3票、棄権10票の賛成多数で可決となり、ババリ議員の議長団メンバー就任が決定した。

これを受け、議長団の空席は違憲状態であるとして下院セッションへの不参加を続けていたSNSD議員団は復帰を発表した。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●洪水被害対応への抗議集会(10日)

10日、学生団体が主催となり、昨年10月の

洪水被害に対する政府の対応を批判する抗議集会が開催された。主催者側は被害状況に関する情報開示、義捐金等の使用状況の公開、現在進行している各プロジェクト・空間計画のハザードマップとの調和等を政府に対し求めた。

●トゥズラ・カントンの政権交代(20日)

20日、トゥズラ・カントン議会での連立勢力の変更を受け、ハリラギッチ前首相(SDA)に代わり、デルビシャギッチ新首相(SDP)が選出された。カントン閣僚も交代となる。なお、財相及び労働・社会政策相は未任命となっており、後日任命が行われる予定。

イ スルブスカ共和国(RS)

●RSの紋章及び歌の使用に関する法律の一時停止を命じるBH憲法裁判所の暫定措置(12日)

12日、BH憲法裁判所は、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク系メンバーの求めに応じ、RS国民議会が昨年11月に採択し、本年2月から施行されている紋章及び歌の使用に関する法律の合憲性を判断するにあたり、一時的に同法を差し止める暫定措置を講じる旨明らかにした。公文書等に他国のシンボルが用いられる状況となった場合にも備え、実際に使用されているものを取り上げることとなり問題が予想できないことから、今般の決定に至ったもの。

●セルビア独立記念日の記念行事(13日)

13日、バニャ・ルカにおいて、セルビア独立記念日(2月15日)の記念式典が開催され、ブチッチ・セルビア大統領及びブチェビッチ同首相が出席した。本式典は昨年6月の「全セルビア人会議」の宣言に基づいて「セルビア及びRSの国家の日(Statehood Day)」としてRSで初めて開催されたもの。

ブチッチ大統領は演説において、国際的に反セルビア的な動きが見られ、ボシュニャク系からセルビアへの内政干渉の動きがあると発言するとともに、セルビアとRSの結びつきの強化の重要性を改めて強調した。

●ドディックRS大統領への有罪判決とそれを巡る動き(26日～28日)

26日、BH裁判所は第一審でドディックRS大統領への有罪判決(禁固1年、6年間の政治活動禁止)を下した。これを受け、RS国民議会は27日、違憲機関(BH司法機関及び捜査機関)の活動停止に係る法案、RS高等司法検察評議会(HJPC)法、RS刑法改正案を採択。右は国家レベルの司法・捜査機関のRS内での活動禁止及びそれらの機関の権能のエンティティレベルへの移行、RS出身の公務員等がRSの利益に背き、阻害した場合等に科される罰則等を含む。

また、同時にRS国民議会は以前採択を試みたいいわゆる「NGO法」案も採択。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●コナコビッチ外相の西バルカン・フレンズ・グループ外相会合出席(10日)

10日、コナコビッチ外相はローマを訪問し、西バルカン・フレンズ・グループ会合に出席した。

コナコビッチ外相は会合の中で、RSによりBHの欧州統合が停滞し、不安定化を招いていると警告するとともに、諸外国によるBHのEU加盟へのさらに強い支持を求め、RS野党はEU加盟プロセスが安定と安全保障に対して有する役割を理解しているとして、野党の強化が重要であると指摘した。

●ミュンヘン安全保障会議へのBHからの参加(14日～16日)

14日～16日に開催されたミュンヘン安全保障会議には、BHから大統領評議会3メンバー、クリシュト閣僚評議会議長、コナコビッチ外相、シュミット上級代表がそれぞれ出席した。

開会式に際し、コムシッチBH大統領評議会メンバーは米国の政権交代に伴い欧州には厳しい時代が到来したとし、トランプ政権に期待を寄せるセルビア系及びクロアチア系を批判しつつ、他国に頼ることなく自らの力を見つけるべきであると強調した。

その他、各者は会合のマージンで各国首脳及び外相等と会談。ベチロビッチ・メンバーはショルツ独首相及びベアボック同外相、コスタ欧州理事会議長等と会談したほか、ルッテNATO事務総長と会談し、セルビアによる「大セルビア主義」の復活を警告。

ツビヤノビッチ議長もベチロビッチ・メンバーとは別にルッテ事務総長と会談を行った。

(2) 二国間関係

●英国西バルカン特使の任命(7日)

7日、英国政府はピーチ西バルカン特使の後任として、ピアース駐米英国大使の任命を決定した。ピアース大使は英外務省東アドリア(バルカン)地域担当を務めた経験を有するほか、駐アフガニスタン大使、駐国連代表を歴任した。

●RSにおけるUSAID案件の捜査(7日)

RS警察は、米国国際開発庁(USAID)の資金援助を受けているメディア、NGO等につき、資金の使途に関する捜査を厳格化する方針である旨発表した。ドディックRS大統領は、当地米国大がUSAIDを通じてRSの不安定化をはかっているとして、同機関によるメディア及

びNGOへの資金提供に係る捜査を開始すると発言している。

●ドディックRS大統領のセルビア訪問(15日～16日)

13日にバニャ・ルカでセルビア建国記念日記念行事が行われ、ブチッチ・セルビア大統領が出席したのに続き、ドディックRS大統領はセルビアを訪問。ブチッチ大統領とともにスレムスカ・ミトロビツァ(セルビア北西部)における学生デモへの対抗集会に出席した。

集会の演説において、ドディック大統領は、RSがセルビアの一部になることを望んでいると強調。さらに、そうした考えに賛同しない者は反セルビア的であると批判した。

●ドディックRS大統領のハンガリー訪問(17日)

17日、ドディックRS大統領はハンガリーを訪問し、オルバーン首相と会談した。会談後、ドディックRS大統領は1月9日の「RSの日」に関連し、捜査機関のあらゆる活動を禁止する法律をRS国民議会で採択する意向を明らかにした。

●コナコビッチ外相の訪米(19日～21日)

19日～21日、コナコビッチ外相は訪米し、カサノフ国務次官補代理(西バルカン特使)、ターナー米下院諜報特別委員長、リケッツ米上院議員等と会談した。コナコビッチ外相はBHのEU・NATO加盟に向けた米国の支援の重要性を指摘し、RSによる過激化がBH及び地域の平和と安定を脅かしていると強調。

また、ターナー委員長(元デイトン市長)からは、デイトン和平合意から30周年となる本年、デイトン市で5月に開催予定のNATO加盟国会議員会議(NATO PA)セッションへの招待状が手交された。

●セルビア要人のRS訪問(19日～26日)

13日のセルビア建国記念行事にブチッチ・セルビア大統領及びブチェビッチ同首相が出席したのに続き、19日～21日には、ブチェビッチ首相が再びBHを訪問。東サラエボにおいて国立アーカイブの展示会開会式に出席したほか、サラエボ市内のセルビア正教会を訪問した。

また、26日のドディックRS大統領の有罪判決の直後、ブチッチ大統領は国家安全保障評議会を招集し、判決が不法なものであり、西側諸国による対RS攻撃が招いた結果とする決議を採択。その後ブチッチ大統領はバニャ・ルカを急遽訪問し、ドディックRS大統領と会談。全セルビア系に対して対話を行うよう呼びかけた。

●ジュリアーニ元NY市長のRS訪問(24日)

24日、ジュリアーニ元ニューヨーク市長(トランプ大統領の元顧問弁護士)がバニャ・ルカを訪問し、ドディックRS大統領と会談したほか、地元TVの独占インタビューに応じた。ジュリアーニ元市長はインタビューの中で、バイデン前大統領の汚職及びコロナウイルスに関するワクチン懐疑派への迫害を批判し、米国の政策がもっと東欧地域に目を向けるべきと指摘。さらに、宗教に基づく伝統的価値観が欧州において失われていることから、西側の一員としての自覚を取り戻し、欧米が一体となって中国と対峙すべきであると主張した。

(3) 日・BH関係

●ブルキツチ外務副大臣表敬(4日)

4日、相木駐BH大使はブルキツチ外務副大臣に着任表敬を行い、良好な二国間関係の政治・経済・文化等の分野におけるさらなる発展の可能性や、BHのEU加盟の重要性につき意見を交わした。さらに、2026年を外交関係開設30周年にふさわしい機会とすべく協力していく点で一致した。



(写真:会談の様子)

●ズビズディッチ下院議長表敬(26日)

26日、相木駐BH大使はズビズディッチBH下院議長に着任表敬を行った。両者は、これまでの友好な二国間関係のさらなる発展の可能性につき意見を交わしたほか、2026年の外交関係設立30周年に向けた経済関係強化及び人的交流拡大のため協力していくとの点で一致した。



(写真:会談の様子)

●天皇誕生日レセプションの開催(26日)

26日、サラエボ市内の「ホテル・ヨーロッパ」にて、日本大使館主催の天皇誕生日レセプションが開催された。BHからはアデモビッチ上院議長団メンバー、チャバラ下院議長団メンバー、ブノザ司法大臣、ボシニャク民生大臣等の政府ハイレベルが出席したほか、当地外交団代表、学術関係者、日系企業関係者、文化・スポーツ関係者等が出席。



(写真:レセプションの様子)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●雇用／失業率

2024年12月の失業者登録数は32万696人(うち女性19万94人)で、前月比で0.4%マイナス、前年同月比で6.6%マイナス。

●平均給与

2024年12月の平均給与(手取り)は1,430KMで、前年同月比で1.7%のプラス。

●消費者物価指数

2025年1月の消費者物価指数は前月比1.4%のプラス。また、前年同月比で平均3.3%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比2.2%のプラス。

●貿易収支

2025年1月のBHからの輸出総額は12.14億KM(前年同期比3.7%増)、BHへの輸入総額は20.93億KM(前年同期比9.8%増)。貿易収支は8.79億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●サラエボ～チャプリナ間の鉄道復旧(10日)

10日、洪水被災区間が1月30日に復旧工事を完了したことから、約4ヶ月ぶりにサラエボ～モスタル～チャプリナ間の鉄道の運行が再開し、旅客運行も行われるようになった。

(3)経済協力

●トルコ専門家チームの被災地訪問(19日)

19日、トルコ環境・都市計画・気候変動省及びTIKA等の専門家チームが、昨年10月の洪水で被害を受けたコニツツ市を訪問。チャティッチ市長と会談し、洪水からの復興及び今後の防災プロジェクトに関する意見交換を実施した。会談では、トルコも同様に洪水の経験があることから、キャパシティ強化に資する経験を共有できると述べられたほか、気候変動の観点から、専門家による監督のもとで防災メカ

ニズムを強化する必要性がある旨強調された。

(4)民間セクター

●小売店ボイコット運動(7日～8日)

7日～8日の2日間にわたり、1月31日に続けてBHで消費者による小売店ボイコットが行われた。物価上昇への抗議のためボイコットが先に開始されたクロアチアでは大きな広がりを見せており、BHでも多くの店舗で来店者が大きく減少した。